

12月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和5年12月末現在〕

令和6年1月15日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、全て悪化した。

業種別でも、製造業、非製造業ともに「景況」、「売上高」、「収益状況」全て悪化した。

前月に引き続きエネルギーや原材料等の価格高騰が続き、高騰分を十分に価格転嫁できず、収益確保が厳しいという報告が見られた。

景況DI

製造業は、前月比7.7ポイント悪化の▲23.1ポイント、非製造業は、前月比16.6ポイント悪化の▲20.8ポイント、全体では、前月比12.0ポイント悪化の▲22.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比11.6ポイント改善の▲23.1ポイント、非製造業は、前月比16.7ポイント悪化の▲16.7ポイント、全体では、前月比14.0ポイント悪化の▲20.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比11.5ポイント悪化の▲34.6ポイント、非製造業は、前月比8.3ポイントの悪化の▲20.8ポイント、全体では、前月比10.0ポイント悪化の▲28.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	学校給食パン	月ごとによってパン給食の回数が著しく低下している自治体が多いとの報告がある。主な原因としては、地場産のお米を学校給食として活用する自治体が増えたことが挙げられる。地場産の食材を地元の子どもたちに食べさせたいという趣旨は理解できるが、このままより多くの地場産の米の活用が増えれば、自ずとパン給食の回数はより減少する。組合としては多様な学校給食を訴えている。
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県11月の清酒課税移出数量は、前年同月比92.9%であった。本格焼酎については、同104.4%であった。主力の清酒は4月より8ヶ月連続の前年割れであった。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、国民の日常がコロナ禍前に戻りつつあり、酒の消費も上向くと期待したが、8ヶ月連続で前年を下回ると現在の状況が実力であり、マイナスは一過性ではないと考えられる。物価高による個人消費に異変が起きていると思われる。長期の前年同月比減は経営に及ぼす影響も大きい。 ○県内当業界について 11月の清酒実績を分析すると高級酒の吟醸酒が前年同月比110%、純米酒112%に対して普通酒が前年同月比72%と大きく落ちている。高級酒が伸びたのは、茨城の地酒の品質が認知されてきていると考えられる。また普通酒はより安価な他県産パック酒に食われていると思われる。
	納豆	土産品としての納豆は秋の紅葉シーズンは堅調であったが、年末年始の帰省シーズンにかけては対前年と同程度であり、コロナ前の水準には及ばない状況であった。年明け後は特に旅行支援等の支援策はなく、新年度の期待感も低い。また量販店向けは一部競争が激化しているとの声もあるが、大きな変化は見られない。やはり先月に引き続き大きな憂慮の声は聞こえない一方で、先行きに期待感もない中で令和6年能登半島地震は、業界全体に心理的な不安感を醸成している。潜在的ではあるものの、今後、資金繰り問題が不安である。
	菓子	前月より販売価格を115%としたこともあり、お歳暮は振るわなかったが、年末年始にかけては人出があり売上高は向上した。
繊維工業	県北地区外衣シャツ	受注量が減少傾向にある。3月までの見通しが不透明である。
木材・木材製品	製材	・国産材の構材、造作材、羽柄材ともに価格は横ばい、全体的に落ち着いた動きとなった。 ・外材についても、価格は横ばい、荷動きは構造材が若干落ち着きを見せ始めた。 ・原木については、杉・桧ともに値を下げた。
	県北地区プレカット	月間加工坪数は目標の90%を達成。1月の加工予定は中旬から下旬に集中している。木材価格は横ばいで推移している。
	県央地区プレカット	12月は大型物件の加工もあり、工場ライン稼働は忙しい状況となった。新規見積物件は減少傾向にあり、年明けからは大幅に加工が減少すると思われる。建築コストの上昇・全体の着工棟数への影響も出てきているように思われる。
紙・紙加工品	段ボール	組合員（中小企業）の生産数量は前年より5～20%ダウンした。例年の年末の様子と異なり、物が動かず厳しい状況であった。大手企業は前年より若干悪い程度で済んでおり、大手企業と我々中小企業との力の差を感じている。
印刷	総合印刷	3年余りのコロナ禍を経験し、「コロナ禍前までは当然のように印刷を行ってきたものが、オンラインによるデータ化も加わり、ペーパーがなくてもできるんだ、効率化につながる」という感覚が浸透し、中小企業の印刷業界は、その大きな波の影響を受け、ペーパーレス化＝受注減少が続いている。
窯業・土石製品	コンクリート製品	県土木部が積算の際、物価資料の平均値により単価を決定している製品のうち、長尺U字溝300と同蓋が約3%、深溝U字溝300×500、300×600、300×700が約6%上昇した。
	陶磁器	秋の行楽シーズンも終えたことで笠間市内の賑わいも落ち着き、通常通りに戻りつつある。来年も賑わいをだすためには何が必要であるか、今一度振り返って考えてみるのが重要であると考えられる。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	鉄鋼・金属	鉄鋼	受注量・売上高ともに前年から10～15%程度減少した。自動車部品関係の受注は大きく減少していないが、建設資材関連や一般機械部品等の受注が減少している。業界全般の景況は、9月以降悪化の傾向であり、受注量は不安定で予断を許さない状況である。金属材料の価格は一時の高騰ぶりではないが、依然として高値のまま推移している。電気代、ガソリンを含む石油関連も高値のままである。
	一般機器	生産用機械	対象7組合員(製造会社)の売上高は前年同月比で2社増加、5社減少であった。団地全体の売上高は、主要取引先からの受注量が前年同月比91%と減少したことを主要因として5か月連続で減収となったが、減少幅は縮小してきている。組合員の従業員は、正社員数は変わらないが派遣社員数の減少により前年同月比で減少となった。
	輸送用機器	県北地区自動車部品	売上高は上昇傾向にあるが、収益面はやや縮小傾向にある。全体の生産高は増加しているが、組合員間ではばらつきがみられる。
非 製 造 業	卸売業	生鮮魚介	精算所取引高は前年同月比99.13%。商品単価の上昇が影響し売上高は前年とほぼ変わらなかったが、物量自体は減少したように思える。年末商材についても月末に多少の荷動きはあったが、コロナ禍前のようにには戻らなかった。
		米麦	年末年始の輸送トラックの不足の心配から、中食・外食向けの販売数量が増えた。
		袋セメント	・袋セメント価格は、12月1日出荷分から卸価格1袋当たり75円(3,000円/t)の値上げを実施した。 ・袋セメントの11月出荷数量は26千袋の実績。値上げ前の駆込み需要の反動もあり、前年同月比71.8%と大幅に減少した。
	小売業	県北地区共同店舗	売上高は前月同月比99.2%、客数は同112.1%、前年同月の売上高を確保できた店舗は46.1%となった。もう少し売上高が伸びてほしい。
		県央地区共同店舗	館全体の既存店の売上高(客数)は、前年同月比94%(97%)であった。昨年は12月から市で発行するプレミアム商品券が利用開始となったことで売上高が伸びていた。年末は昨年とほぼ同様の売上推移であった。 主要業種の売上高(客数)：食品93%(95%)、飲食99%(100%)、ファッション98%(101%)
		県南地区共同店舗	組合員店舗の売上高は増加。商品単価はアップしている。スーパーマーケットの売上高は減少。ショッピングセンター全体としては前年並みの結果となった。
		家電	12月は暖冬であったが、訪問活動の重視等により、各組合員はほぼ前年並みの販売実績となった。自治体等の補助金を活用し、家電を買い替える顧客もいるが、物価高の影響による消費行動の低迷も見受けられる。
		燃料	国の燃料油価格激変緩和策により燃料油価格は抑えられているものの、レギュラーガソリンの価格は170円/Lを超えており、前年同月比で10円/L高くなっている。しかし、販売数量は前年よりさほど落ち込まなかった。しかし、仕入値が上がってきたのにも関わらず、年末商戦の影響からか、小売価格は少しづつ下がってきた。12月中旬までは暖冬の影響で気温が下がらず灯油の需要が少なかったものの、下旬から気温が下がり、前年並みになった。
		中古自動車	12月期の販売台数は前年同月比102%で前年と同水準であったが、販売価格は同81.8%と2割弱の落ち込みとなったため、売上高は同83.5%と大きく減少した。昨年10～11月にかけて実施した全国クレジットキャンペーン実績によると、前年度割れとなっている県が8割にのぼっており、12月期においても全国的な販売不振が続いている。
		食料品	当組合は食品流通業であり、組合員の売上高に関しては、新型コロナウイルス感染症の中で食のライフラインを担っている。12月の売上高は前年同月比99%となり、前年を割ってしまった。来店客数は前年比100%と2か月連続で前年を維持している。売上高で前年割れした部門が青果部門97%、精肉部門93%、一般食品98%、菓子部門95%となった。販売点数が前年より落ちているため、メーカー値上げが原因で前年割れしたと考えられる。 来店客数は減っていないため、店頭での販売方法の見直し・強化を行い、前年売上を超えられるよう対策を講じていく。
	野菜・果実	12月は野菜果実合計で前年同月比101.2%の取扱高となった。11月末は単価安で推移していたが、12月に入ってから暖冬の影響から取引高が増加。暖冬の影響により出荷が前進傾向だった品目が12月に入って不足したのだと思われる。今年はクリスマス用のイチゴが不足しているとの声が各所で聞かれ、例年であればその時期に買入が増える組合員も伸び悩み、中旬以降は取引高減少に転じた。	
	商店街	水戸	引き続き、人手不足、原材料高騰や水道光熱費の上昇が続いている。
		筑西	売上高はやや上向きではあるが、コロナ禍以前と比較すると50%程である。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
非 製 造 業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)の前年同月比は、普通車はほぼ横ばいであったが、軽自動車は前年同月比106%と順調な伸びを示しました。	
	サービス業	旅館、ホテル	茨城デスティネーションキャンペーンや体験王国いばらき割の延長及び忘年会需要の回復等により集客が増えている。一方、前年比でマイナスの厳しい状況の地域もある。なお、集客地域については、県内及び関東地域が多くを占め、台湾や香港等の東南アジアからのインバウンドが堅調な地域がある。また、業界の景況は好転しているものの、人材の確保や人件費の増加、食材費や光熱費の高騰により販売価格の値上げ等を行う等、経営状況は厳しい状況にある。
	建設業	総合	年末になると、以前は交通渋滞が起きる等追い込み工事が多かったが、現在はそのようなこともなくなり、地域の方にご迷惑をかけることが少なくなった。工事発注の平準化が進んだものと考えられる。
		電気工事	電線ケーブルの各メーカーは需要増等により供給が間に合わず、受注を停止しているため、ケーブルが入手できず大変厳しい状況である。
	運輸業	軽貨物自動車	当月の組合員数は104名、車輛台数は133台で前月と比較して1名減少、1台減少であった。また、運送売上高については、前年同月比76.9%であった。全国連合会での当月の組合員数は6,278名、車輛台数7,474台で前月と比較して33名減少、31台減少であった。
		一般貨物自動車	主要顧客の発送物量は、横這いであるが輸送運賃の値上げがあり、その分売上高は増加した。一方、人件費等の経費も上昇しており、収益は厳しい状況が継続している。燃料価格については、高値から更に値上がりしており、厳しい状況となっている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食回数増要望
	納豆	近年、コロナや様々な国際紛争が続く中、今回は元旦に令和6年能登半島地震が発生した。まず被災地支援と一刻も早い復旧を祈っている。年の瀬に向けてコロナ前の水準には及ばないとは言え、ようやくポストコロナへの期待が出てきた中での天災であり、この事態に対する政策が、新年度の行政、より言えば政治の社会に対する姿勢を卜するものと言えるであろう。これは具体的な要望とは言えないものの、これに誠実に対応できなければ、天災はむしろ人災に転じることになるであろう。このような状況の中では単に一業界の要望に言及するのは気が引けるが、社会は有機的な関係性を有するので、状況に応じて臨機な、物流、原材料価格、資金繰り等、将来的な不安感を解消できるような政策を政府に期待している。
小売業	燃料	揮発油税に課税している二重課税の廃止 燃料油価格激変緩和策の継続と出口戦略の明確化 物価上昇、円高への対応
建設業	総合	12月の段階で次年度繰越工事も発注されるなど請負業者としては4月以降、数か月経費の削減が行われ安心した経営が行えるようになりつつある。これからも続けていただきたい。

月次景況調査 12月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	12月	11月	前月比	12月	11月	前月比	12月	11月	前月比
景 況	▲ 22.0	▲ 10.0	▲ 12.0	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 7.7	▲ 20.8	▲ 4.2	▲ 16.6
売 上 高	▲ 20.0	▲ 6.0	▲ 14.0	▲ 23.1	▲ 11.5	▲ 11.6	▲ 16.7	0.0	▲ 16.7
収 益 状 況	▲ 28.0	▲ 18.0	▲ 10.0	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 11.5	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 8.3
販 売 価 格	32.0	26.0	6.0	11.5	11.5	0.0	54.2	41.7	12.5
取 引 条 件	▲ 14.0	▲ 14.0	0.0	▲ 15.4	▲ 11.5	▲ 3.9	▲ 12.5	▲ 16.7	4.2

中小企業月次景況調査(令和5年12月)DI値(前年同月比)

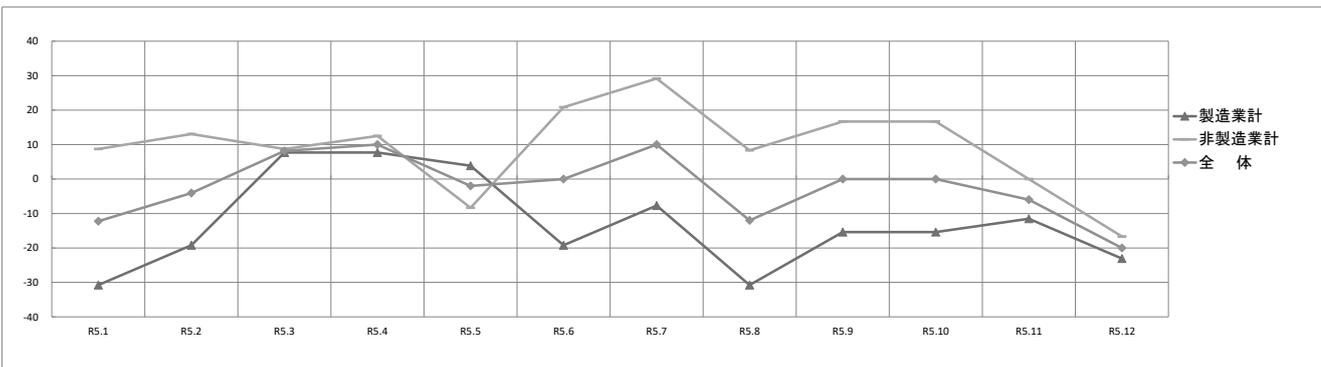
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)																
		増加	不変	減少		業界数	増加	不変		減少	業界数	上昇		不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化		業界数	好転	不変		悪化	業界数	上昇		不変	悪化	業界数	増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数						
製造業	食料品	16.7	2	3	1	6	0.0	0	6	0	6	33.3	2	4	0	6	0.0	0	6	0	6	33.3	2	4	0	6	△ 16.7	1	3	2	6	33.3	2	4	0	6	△ 16.7	0	5	1	6	16.7	1	5	0	6
	繊維工業	△ 100.0	0	0	3	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3
	木材・木製品	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	紙・紙加工品	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 40.0	0	3	2	5	0.0	0	5	0	5	60.0	3	2	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 60.0	0	2	3	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 60.0	0	2	3	5
	鉄鋼・金属	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1
	一般機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1
	電気機器	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1					
	輸送機器	33.3	1	2	0	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	1	1	1	3	33.3	1	2	0	3	0.0	1	1	1	3
製造業計	△ 23.1	4	12	10	26	△ 3.8	2	21	3	26	11.5	5	19	2	26	△ 15.4	0	22	4	26	△ 34.6	2	13	11	26	△ 11.5	1	21	4	26	△ 7.7	3	18	5	26	△ 11.5	1	21	4	26	△ 23.1	2	16	8	26	
非製造業	卸売業	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3	100.0	3	0	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3					
	小売業 (商店街含む)	△ 25.0	1	7	4	12	0.0	1	10	1	12	50.0	7	4	1	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 16.7	0	10	2	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 16.7	1	8	3	12					
	サービス業	50.0	1	1	0	2	X				50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	1	0	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	1	0	1	2	0.0	1	0	1	2						
	建設業	0.0	0	5	0	5					20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5						
	運輸業	0.0	1	0	1	2					100.0	2	0	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2						
	非製造業計	△ 16.7	3	14	7	24					0.0	1	13	1	15	54.2	14	9	1	24	△ 12.5	0	21	3	24	△ 20.8	1	17	6	24	△ 8.3	0	22	2	24	△ 12.5	1	19	4	24	△ 20.8	2	15	7	24	
全体	△ 20.0	7	26	17	50	△ 2.4	3	34	4	41	32.0	19	28	3	50	△ 14.0	0	43	7	50	△ 28.0	3	30	17	50	△ 10.0	1	43	6	50	△ 7.7	3	18	5	26	△ 12.0	2	40	8	50	△ 22.0	4	31	15	50	

D I 値推移表 (R5.1月 ~ R5.12月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 33.3	33.3	33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	33.3	16.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 15.0	0.0	0.0	15.0	▲ 5.0	▲ 5.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 19.2	7.7	7.7	3.8	▲ 19.2	▲ 7.7	▲ 30.8	▲ 15.4	▲ 15.4	▲ 11.5	▲ 23.1
卸売業	▲ 33.3	0.0	0.0	▲ 66.7	0.0	66.7	66.7	66.7	0.0	33.3	33.3	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	27.3	0.0	9.1	16.7	▲ 25.0	8.3	16.7	16.7	33.3	0.0	▲ 8.3	▲ 25.0
サービス業	▲ 50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0
建設業	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	40.0	20.0	▲ 40.0	40.0	40.0	▲ 20.0	0.0
運輸業	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	8.7	13.0	8.7	12.5	▲ 8.3	20.8	29.2	8.3	16.7	16.7	0.0	▲ 16.7
全体	▲ 12.2	▲ 4.1	8.2	10.0	▲ 2.0	0.0	10.0	▲ 12.0	0.0	0.0	▲ 6.0	▲ 20.0

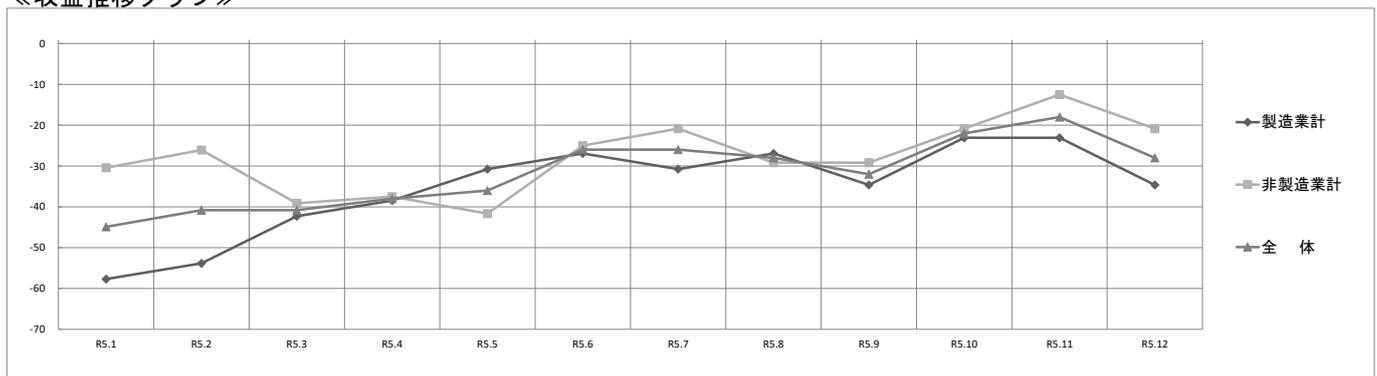
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3	0.0	▲ 16.7	▲ 16.7	16.7	33.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 45.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 55.0
製造業計	▲ 57.7	▲ 53.8	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 23.1	▲ 34.6
卸売業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 18.2	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0
サービス業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	0.0
建設業	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 30.4	▲ 26.1	▲ 39.1	▲ 37.5	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 20.8
全体	▲ 44.9	▲ 40.8	▲ 40.8	▲ 38.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 26.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 22.0	▲ 18.0	▲ 28.0

《収益推移グラフ》

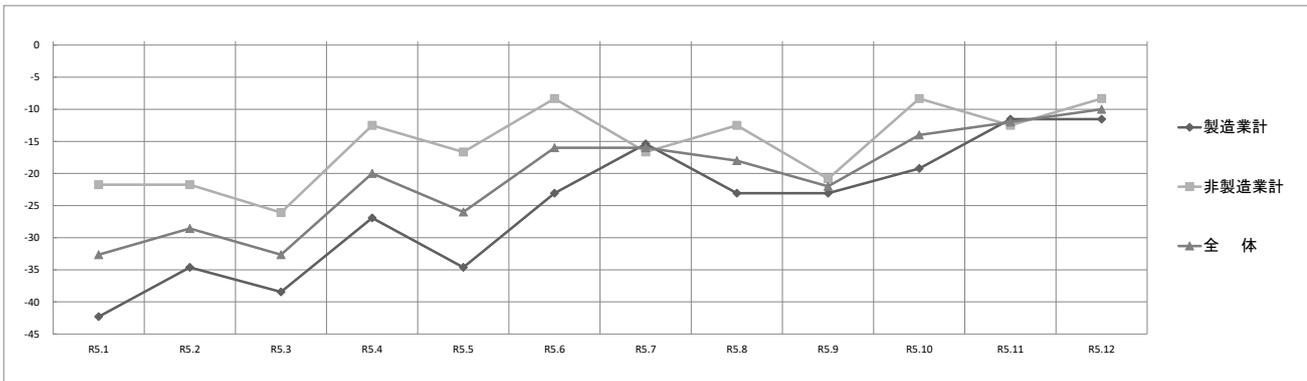


D I 値推移表 (R5.1月 ~ R5.12月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0	0.0	▲ 33.3	▲ 16.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 5.0	▲ 10.0
製造業計	▲ 42.3	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 11.5	▲ 11.5
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 36.4	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 16.7
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	▲ 100.0	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 21.7	▲ 21.7	▲ 26.1	▲ 12.5	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 12.5	▲ 8.3
全体	▲ 32.7	▲ 28.6	▲ 32.7	▲ 20.0	▲ 26.0	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 18.0	▲ 22.0	▲ 14.0	▲ 12.0	▲ 10.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 66.7	0.0	16.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 35.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 38.5	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 15.4	▲ 23.1
卸売業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 66.7	0.0	0.0	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 9.1	▲ 18.2	0.0	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 25.0	8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7
サービス業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0
建設業	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 17.4	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 12.5	4.2	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 20.8
全体	▲ 28.6	▲ 24.5	▲ 24.5	▲ 22.0	▲ 18.0	▲ 24.0	▲ 18.0	▲ 30.0	▲ 22.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 22.0

《景況推移グラフ》

